



日本風土記 六

東山道
近江 美濃 飛騨 信濃 上野
下野 陸奥 出羽

ル 3
302
6



門ル 3
第 502
卷 6

日本風土記卷六

東山道 八箇國

○ 近江國 十三郡

田圃 三万三千四百五十丁

山河田畑豊熟 田圃にして穀を種と爲す事多し

傍りて 桑糸子くわが爲日本 四麦の園

滋賀 粟本 野洲 蒲生 神寄

犬上 坂田 愛知上 浅井 伊香 又伊甲小

高橋 甲斐 善積上 大管大上之國 四方三日半

知行高八千三百二十石 江戸ヨリ 百十里余



城下 彦根城 水口城 膳所城 仁正寺 大溝

小室 山上 三上 堅田 宮川

近 一之宮 建部神社

名産

野洲瀑布 高宮布 八幡敷帷 畳表 浮草巻

長浜練 日縮日縮 小笠原紙 辻持徳釜 武佐井 伝次遠文

山葵 獨活 茵陈 蛇骨 蟬脱 煎安

石灰 幸灰 滑草 山青花 山月朝 源五郎朝

小近江鮭 鱒 鱒 鱒 鯉 似鯉 堅田海老

瀬田鯉 水魚 愛部門猪子 宇敷節 本戸石

高嶋硯 砥石 柳盤板 綾巻模紙 朽木盆 甲賀香焼

日野温純 水口藤裡工 日矢根 草津鞭 守山餅 坂幸焼管

大津助伴 池側針 大津繪 一里塚茶 美盤 篠原餅茶

日野梳 姥公 竹生硝水晶 信樂茶 政所上品

香炉の 灰とん 栗平那しり 土中小埋ね 赤系朽葉し びり 栗の大本の系 あり 産物 焼く

名所

石山 修吹 弥高山 石戸山 板倉山

石根山 修香具 不都毛川 岩清水 走井 波母山

明神	大室	立木	櫻谷	建部
赤山	牛頭	筑摩	四宮	多賀
新羅	水尾	八幡	日吉	彦根
	田村	矢橋	伊吹	三上
	黒主	兵主	竹生	石部
	秀郷	小津	白鬚	苗賀

神社

水草岡	三井	志賀	滋賀	日吉	守山	小松
勢多橋	醒井	垣深山	山田	竹		

目妻	真聖浦	大倉山	真海山	長湯山	余吉浦	唐崎	千枝	湖海
梓松	松ヶ崎	朽本松	老曾社	名取川	王川	鏡山	高島山	常盤橋
横山	已高見山	栗本里	陪膳溪	打出溪	高崎	痛生聖	大日枝	香薷山
万本社	比良	野洲	大嵩	宇根聖	谷上	堅田	小比叡	千々松原
三尾	逢坂山	山井	大宮	野島	筑摩	陸野	我立松	千坂浦
三上	栗津	矢橋	大津	聖徳原	七社	横川	若松社	竹生島

ウノニ

○建部社 粟太郡二有 祭神

大己貴命一宮記 天武帝白鳳四年勸請

○貞觀九年七月十一日授從四位下國史

○多賀社 犬上郡二有 祭神一座

○伊弉諾尊 額云多賀大社。伊弉諾尊

功既至德亦大矣於是登天報命仍留宅於日

之少宮日本記 ○神書抄曰日之少宮者近

江國犬上郡多賀大明神也近江在良方

日之所初出也故曰日少宮

按神記云伊弉諾尊構幽宮于淡路之洲

寂然長隱故用事記亦載伊弉諾坐

淡路之多賀神名張亦云淡路津名即伊

弉諾神社蓋伊弉諾在於彼亦在於此也

或云以近江國為良方自今山城王宮視

之則然性日伊弉諾尊都於山城國乎不

若未都于此則以近江國為良方則似未

可信云關國之初自有王幾之兆在山城

洲其數遷都乎四方者時使然也 啓

天照大神——正哉吾勝之速日天忍骨尊

天穗日命

天津彦根命

活津彦根命

○三上社 益須郡二有リ 祭神一座

天郎影命 社記云伊特諾之別称也

○古事記云近淡海國之郡上祝以伊都玖

天之御影神也 兼右神祇正宗日今多賀

大明神本地伊特諾尊也人皇七代孝靈帝

六年出現○社家相承所謂伊特諾尊也天

照大神之兩座也仍称天郎影日郎影社

類聚國史云貞觀十七年三月十九日三上

神迹三位

或曰當官祭官食于陶器炊于瓦釜又忌

草服火奴之類林天下第二之忌火也奈

何云皆疾機巧之智欲早計之故也盖神

貴乎淳朴賤機巧且古人祭服多以草造

之本朝疾皮革之屬竊惟古人用之不忘

神祇正宗 啓

○櫻谷社

栗太郎去于勢多之南一里許有

祭神一座 瀬織津姫命 式所謂佐久

奈止社是也天照太神荒鬼也

○伊弉諾尊洗龙眼因以生神云天照荒魂

亦名瀬織津比咩神 阿波良波命傳

○仁壽元年六月丙子詔以近江國散久難

度神列明神 文征實錄

鎮坐事紀不明 日上啓

○四宮 志賀郡大澤之驛ニアリ 祭神四座

大日春 小日春 氣比 小禪師

大日春 大日貴命 日吉社記

○小日春 國常立尊 月上

○氣比 仲哀天皇 月上

○小禪師 彦火之由見尊 月上

當社日吉榊殿也

○日吉 月郡坂本村ニ有リ 祭神七座

大宮 二宮 聖真子 八王子 客入

十禪師 三宮 已上七社

大宮 大己貴命 傳上ニミエタリ

○人皇卅九代天智帝御宇自鳳二年三月三日琴御館奉祭山麓其後御館乞奉拜尊神御形于時夜忽光耀如日其中有天字更無異物依之奉稱大宮也 日吉鎮坐記

○二宮 因常立尊 神皇竟尊 傳上ニミエタリ

○此即天地二義主神天地始其中出現之故名二宮二字此天字畧也天地陰陽兩義

加護神者是也密跡始自神代已來波母山降現也 日吉鎮坐記

天地初判始有俱生之神号因常立尊次因狹立尊又云高天原所生神名云天御中主尊次高皇產灵尊次神皇產灵尊 日本紀

○聖真子 正哉吾勝尊 傳系上ニ見エ

聖者神也言於兩神真心中出生故名焉 鎮坐記

○八王子 因狹立尊 ○天地之中生

物狀如葦牙便化為神号國常立尊次國狹
植尊 日本紀 ○八十萬神大祖元氣神也
尤有口傳 鎮坐記

○客人 伊弉册尊 ○次有神伊弉諾尊
伊弉册尊 日本紀

○十禪師 瓊之杵尊 ○天照太神之子
正哉吾勝之速日天忍穗耳尊娶高皇產灵
尊之女栲幡千千姬生天津彦火瓊杵尊
日本紀 ○十著天七地三之數禪讓也師

國也言十善天子護國之義 鎮坐記

○三宮 惶根尊 一說天照太神三女

○三女影向故名三宮 鎮坐記 ○天神

第六惶根尊是也 日大記

○所屬十四座 加上七坐称二十社

○下八王子宮 天御中主尊

祭礼七社外當社有神馬也東有石名石船

明神初降之地 鎮坐記

天地初發之時大海中有一物浮形如葦牙

其中神人化生名云天渟中主神故号豐原
原中因又因以云豐受皇大神鎮坐本紀
○天地初發之時於高天原成神名天之渟
中主神古事記

以國常立尊為元始蓋同体異名也日本純

○王子宮 建御名方命又御名方命共大日貴命子也

自信列諏訪郡鎮坐鎮坐記

大物主神娶高志河沼姬生一男建御名方神旧事紀 ○傍濃諏訪神是也

○早尾 素交交鳥尊 又訖依田彦命傳上

○馬場頂上鎮坐也諸人加護深重神之故

坂口祭之 鎮坐記

○大行事 高皇產灵尊也傳上三三三又

昔日神入磐戶用居之時以此神之謀而集

八百万神奏神樂日神再御怒解同上

○聖女 下照姬也傳如上

延喜年中中祭之同上

○新行事 瀧津姬也 ○天照太神素

○トチノミ 炎鳥トチノミ 盟ナレ 而所生三女神之一也 月上

○ウツク 牛尊 八王子ウツク 右ウツク 奈之ウツク 此殿底有靈石

尤口傳ウツク 月上

○コチン 小禪師 彦火々出見尊 傳上コチン 三三エリ

地神第四尊也 月上

○クワ 惡王子 深秘 ○童子形出現 月上

○イハ 岩瀧 踏鞠イハ 姬命 淺井郡竹生嶋神同

躰也神武帝后也 月上 ●踏鞠イハ 姬命 事代主

命子也 大已貴之孫ナリ

●事代主神

アスヒノカミ 夫日方部日方命
タカハシ 踏鞠五十鈴姬命
イハ 五十鈴依姬命

○クニ 劍宮 素戔クニ 武甕クニ 尊神也

童形出現也唇頰凶事退散神也 月上

○キヒ 氣比 仲良天皇也 ○ニギハヤヒ 從越前國角鹿郡

影向也桓武帝御宇勸請キヒ 月上

○オホノ 大竈 渙津オホノ 彦命也 ○オホノ 此即大歲神子

也大歲者杵築大神御孫也諸家竈神是

也 同上 神傳系上ニミエタリ

○竈殿ツイビシ 渙津姬神也 ○註同上 鎮坐記

○所撰社

○若宮殿 在和田所ヒエ比睿ツツミ辻

国常立尊也 同上

○護国コクノミ 在王子宮邊

二茶院勅附也 同上

○女別當社メノベツカウダ 在唐崎ニ唐崎社是也

大宮初ハツメ顯シラフ之地シホ口傳社也 同上

今按此イマニ外神社ソトノカミヤ社所載ニ之數七十座然シカド摘其要トク而記焉ニ

○位記

大宮 五十七代陽成院元慶四年正一位

二宮 八十一代安徳帝壽永二年正一位

聖真子・八王子・客人・十禪師・三宮

已上五社 八十八代後深草院建長二年

正一位

○祭 四月中申日 日吉鎮座記祭儀式

云卯月祭礼者琴御館以大賢木ヲ奏神幸之祝詞於唐崎如先盟リ植世裔奉粟御料也出神輿而祭者植武帝延曆十年又御舟祭始延文中中洪水已後例也

○七十一代後三条院延久四年四月廿三日記云今日比魯祭也自今年初被立官幣二十二社 ○或云六十四代圓朝院貞元二年四月廿六日始被遣上卿辨外記史諸司 ○臨時祭 四融院治十二年天元五年七

月五日依殿願被遂行之 使侍從藤原朝臣栗田 ○第六十六代一条院長德元年八月廿一日被行之 使左少將源朝臣方 ○或說八十二代後鳥羽院建久三年二月十三日丙辰後白河法皇依御不豫ヨ御願被行之 使正三位行充近衛權中將藤原朝臣忠經 此已後絶 ○行幸始 七十一代後三条院延久三年十月廿九日始 已上數說 啓蒙

○日吉神社一座注云比睿神同 延喜式心
○傳記云山王推現者磯城嶋金刺宮欽明
即位元年自天降于大和國磯城上郡而現
大三輪神其後大津宮天智即位元年現老
翁形告云我是大比睿大明神也地主推現
者天照大神用天若戶以鋒搜海中時有神
當其鋒是用闢之初國常立尊降而為神以
主豐產原者也此時滋賀浦三津川見五色
波所謂大比睿小比睿大官二官是也
神社考

○秋行圓姓須氏通議大夫國舉之子也初
引己冠為進士名國輔隨父赴列有壁其留
在都下因輔數懇求一日潛歸回安云
近聞其人病無看養不知已終不國捕尋求
往野其屍脹爛不可見也國捕不還家即入
園城寺剃落遊智靜心學之門以故精修
學修如意輪觀自在供大悲尊現身放光常
與山王明神清談明神云我名山王公委之
乎表三諦即一也山字豎三畫者空假中也

橫一畫是即一也王字橫三畫者三諦也豎
一畫又一也二字三畫而有一貫之象故我
立為号也一心三觀一念三千亦復如是是
以我護持公教鎮覆國家我身外無名名外
無身即身而名即名而身名外無法法外無
名即名而法即法而名身与名法無二無二
是名一乘我名義也 元亨釈書
山王 本地藥師 大宮推現 歡迎
聖真身 阿弥院 二宮藥師

八王子 千手觀音 客人宮 十二面觀音
十禪師 地藏 三宮 普賢
中七杜牛御子 大威德
大行事 毘沙門 早尾 不動
气比 聖觀音 下八王子 摩訶藏
王子宮 文殊 聖母 如意輪
下七杜小禪師 弥勒 龍樹
惡王子 愛染明王 新行事 吉祥天女
岩瀧 弁才天 山末 摩利支天

劔宮 不動 大宮竈殿 大日

聖真子竈殿 金剛曳大日

二宮竈殿 日光月光 已上習合神道之説

○日吉社与松尾神為同躰也後朱雀院長久四年六月八月初備二十二社之數後三条院延久四年四月二十三日初祭之後白河院永曆元年十月十六日移日吉神躰於東山今熊野新宮号云新日吉應保二年四月三十日初祭云云 公事根原

○首一條乃以河上結也時をいつくものち千鈞の法花經遠海乃彩巾中になつてけれども他まづくして信一人をさるるまゝとくいあしむひのて日吉乃社ふ海でて二心く初るをみ神感りりてとくさるふ上結書おけりけり仁國乃宮ありけりともてふ初乃結ともめてけりそ夜の馬を舟を傍枕みとたりては海に若く汝一葉の波瀬とらわらるる

とてらんちいどあづこせはらうけつとあきまうく
終らうはぬれ人かきまうくせはらうけつ
くれど吾ハ一衆守護の十禪師ありと
のほひてあまの人海ありと
一衆はのうとなつるあまの世は仏の所しぬぬ
あまのうきまうくまうくせはらうけつとあきまうく
とてらんちいどあづこせはらうけつとあきまうく
とてらんちいどあづこせはらうけつとあきまうく

然もあまのうきまうくまうくせはらうけつとあきまうく
まうくまうくまうくまうくまうくまうくまうく
○中比ノ事ナルニ具ナル山法師有リ世路
ノ不叶事ヲ憂テ年来山王エ詣ツ泣ク
祈申ケレト更ニ其驗ナレイト口惜覺テ
宿業限アラバ不叶示玉ヘカレ不通ニ聞
入玉ハストウラヌレク成ニ地何セント思フ
程ニ相知人稻荷ニモモリケレバソレト友ナ
ヒ七日詣ツ又事ヲ二心ナク祈申スカリテ

七日ニ満ズル夜ノ夢ニ御戸ヲ押開テ盥
裝束シ玉ヘル女房ケケ高クメテタキサニ様ニ出
玉テ法師ノ胸ヲ引開ニ寸バカリキ紙ノキレ坑
ヲ押付テ帛玉カリヘリコレヲ見レバ千石ト云フ文
字有リイミシキ神徳ヲ蒙リヌト思ヒ覺
程ニ鳥居ノ方ヨリ目出度ケナル人ノ多ク
仕人ニ圍繞セラレテ入玉フアヤレク誰カハ
カバカリノヨホ粧ナラント見ル程ニ宮殿ヨリ有
ツル女房イソギ出玉ヒテ何事ニワタラセ

至ヘルニカ寂思ヒカチズト申玉フ客人ノ玉
フマツ若植モシ舞ト申法師望申ス事ヤ侍
ルト同玉ソコトヘリ余事ニ侍ル七日ノ間法施ヲ
ナレ念比ニ祈申ツレバ只今望申ツル事ハ
叶侍ストノ玉フ客人ノ玉フハ努々有サル事
也我ニモ手トレ来ナゲキ申侍リキ其ツトメ
淺カラズ侍レハ玉ハラセンニハ何事ヲモアタユフ
ベケレレワサト聞入侍ラズ既ニ玉ハラバ速ニ
召返サセ玉ヘトアリ女房オドロキ玉テ

故侍ケルヲモ知ラス誤仕ス但レ其僧ハイ
ニニタ此ニ侍ルル召返ナントテ立ヨルト玉テ胸ヲ
紙切ヲトリテ帰至ヒ又僧思フマウ此客人
ハ疑ナク山王ニユソオハレニスメレト手來功
ヲ入レ奉レリ我モトメケヒ玉ハレ事ヲコソ難
カラメ適外徳ヲカウブルヲサヘ妨玉ヲノ事
ウラメレクテ泪ヲオサエ居ケル程ニ女房
サテモ如何ナル故ニテワガトワタリ至ヒテ
カク妨玉ヲゾト向玉ヘリ客人ノ玉ヲマリ

此僧ハ順次ニ生死ヲイトフベキ者ニテ侍ル
ヲ若モ豊コニレテ世ニ侍ラバ必餘執ヲカリ成
穢土ニ留ルベキ也コレニ依テミツカラニキ
穢ナル事ヲバトカリシテ遠工ヲ往生ヲトケ
サセントカ備侍ル也トノ玉ヲト覺テ夢ヲサタ
ケリアハレニオ泰オ覺テ山ニ歸リ又其後此望ヲ
タマレテ偏ニ後世ヲツトメツ井ニ往生セリ
月藏房僧都トハ是也下各一百因縁集

日吉の社和あり後り

法下慈田

千載

ふねむ日吉のうけはねの世の戸をもちさうめやハ

日吉の社和あり後り

法下慈田

法下慈田

ふねむと我世と社和ありとてふふ初とふねの社

○大文 日吉乃社和後りもろいりあれ中に大文と

撰

○二文 日吉乃社和後りもろいりあれ中に二文と

撰

○三文 日吉乃社和後りもろいりあれ中に三文と

古

○聖志子文 聖志子文和後りもろいり

六二下

撰

○客人宮 客人宮和後りもろいり

撰

○十様所社 十様所社和後りもろいり

撰

○伊吹社 栗太郡伊吹里ニアリ 膽吹五十草

伊服岐

撰

○祭神一座 八岐蛇所變

撰

伊服岐

祭神一座

撰

八岐蛇所變

伊服岐

祭神一座

和泉寺

日本武尊還自東征到於尾張聞近江膽吹
山有荒神即徒行之山神化大蛇當道尊不
知主神化蛇之謂是必荒神之使也既得殺
主神其使者豈足求乎因踏蛇猶行時山道
雲霧大起尊迷而失路遂痛身如醉偶得泉
而醒因号其処云醒井日本紀之心

○神社考云素戔嗚尊在出雲國斬八岐蛇
尾中有神劍所謂天村雲劍也尊獻之于天
照太神々々云是入天岩戶時墮於近江國

伊布貴山予推日本武尊所佩之劍乃素戔
嗚尊所獲于蛇尾者也故八岐蛇灵為求其
旧物而當于尊之行道也是以言膽吹神八
岐所變也 塔

貞觀元年正月廿七日從五位上 神階記

○竹生嶋社 淺井郡有リ 祭神一座

宇賀御魂命 素戔嗚鳥子也 上三見生

改曆雜事云景行天皇治十五年淡海周湖
中竹生島出 聖武帝天平三未辛未竹生

島神頭形 塔

竹生宮者在江列湖中其巖石多水精室珠
本朝五奇異之其一也傳言孝灵天皇四年
江列地折湖水始湛駿州富士山忽出焉

景行天皇十年湖中竹生島初漏出云 神社考

拾遺集 竹生島水出焉云云

らけげの水ふらうそてゆ々れ 法橋觀教

水海秋のふらうしてはらうるなれゆり

○ひらうる川乃山此なる有とらうら

神女ゆりさす卯月乃江江列竹生島人々なみ

つまをきけるらうらうらゆりさす

むりねる方みふらうそてまらぬ

良青三千世衆眼あおとゆり

神女ゆりさすくはらうそてまらぬ

交はるす二因縁の管あえとらう

身ゆりさすやうみゆりさす

さゆりさすゆりさすゆりさす

ぬとゆりさすゆりさすゆりさす

らむじあしゆんくもくしゆくゆき
神のまじりてはゆきまじりては
むかひゆきまじりてはゆきまじり
こはしゆきまじりてはゆきまじり
乃威勢いゆきまじりてはゆきまじり
そゆきまじりてはゆきまじりては
ゆきまじりてはゆきまじりては
ゆきまじりてはゆきまじりては
ゆきまじりてはゆきまじりては

そのつらきまじりては 撰集抄

都良香虫社官心慕神仙下且垂簪白纓入山
修鍊不知所終後百余歳或人見良香白大峯
山窟中其顔色不長矣 神社考

平経正此山ニワタリ神明法樂ノ御タメニ
曲ヲ彈ゼン仙童ノ琵琶トリ出シナシマト
ノ玉ハ安キ事也トテ僧琵琶ヲイダ
キテ経正ノ前ニ罔ク経正カキヨセ玉ヒテ
樂ニツニツ彈ジテ後ニ上玄石上ト云フ

秘曲ヲ彈ジ玉フ諸僧耳ヲ敬テ感涙袖
ヲレホリケリ天女納受レ至ヒテ社壇ノ上
ヨリ白キ梳キツ子イテ來庭上ニアソビテ經正ノ
方ヲ守リケルユヲ不思儀ナレ經正ハハ
ヲ閣テ神明ノ化現ト忝ク思ヒ至ヒケレ
ハ所願成就ウタガヒナレ和光利物ノ
夏衣思ヒ立ケルウレレサヨ
千早振神祈ノ叶ヘバ白クモ色ノアラハレニケリ
トノ詠レ玉リ下界 保平盛長記

○白鬚社 北良明神月志賀郡境打下在

祭神一座 猿田彦神 傳上ニ見エタリ

○打嵐白鬚大明神者猿田彦神也 神祇正宗

鎮坐年紀未考

秋法勢磨山義真之徒也承和八年過近列
比良山下和途村宿民家々婦俄病狂言云
師讀觀音普門品我欲聽之勢素持普門品
然思狂病之言不足聞使云我無經本故不
能也婦人云師臂囊見經在焉勢不得已出

經讀之婦人合掌云我比良明神也勢云我
聞神者皆有通又長壽背秋迦文出世西天
未審見知不婦人云我不在西印度然予數
百年前請天多西者去豈迦文出世時乎

元亨秋書

○^為木社 草津驛札述有リ祭神 与春日
社同 正一位立木神
社家者流曰當社番路与春日同体神也予
今以藤原為神受草

六ノ二ノ八

鎮座年紀未分明 已上啓

○筑摩社 坂田郡筑广ニ有リ 祭神
御食津神 傳註上ニミエタリ
仁壽二年三月甲戌近江国筑广神授徒五
位下 文德実録

按筑广庄大膳職御厨之地也運送色自
載在延喜式等故以當職所祭之神祠此
地欲盖此神依掌稻食而里女為婚則祭
祀必戴金鍬奉神矣不幸於少壯之間為

彌則改嫁焉再嫁者二牧三嫁者用三牧啓

於之 逸摩 江林沼野 和方に流り

○法華峯社 蒲生郡八幡村ニアリ 余神

八幡 同石清水

社記云人皇六十六代一條院御宇影向法

花峯同御宇長徳三年行放生會其啓

○矢橋八幡 附山田八幡 栗太郡矢橋浦所

未之東一町詩ニ有リ 祭神三座

中ハ神功皇后左住吉 右ハ高良 鞭崎八幡ト号ス

○人皇四十四代天武天皇白鳳四年乙亥二

月十一日依勅願詔大中臣清平呂於近

江国栗太郡矢橋浦奉勸請聖母太神住吉

高良三所正八幡宮一座在山田郷同日鎮

座第八十二代後鳥羽院建久元年十月二

日源朝臣頼朝上洛之時於矢橋浦有神社名

浦人在馬上以鞭指之問浦人答云八幡宮

也賴朝有下馬拜之依此有鞞崎之名同

三年賴朝以卜部兼藤奉再與社壇同四年

八月十五日有遷宮二十二社註式

○兵主社 野洲郡三有リ祭神一座今所傳

七座也所謂表當宮七名欤乎

太國王命 大己貴命別名也傳系上三

見エタリ ○大國王命也入皇三十代欽

明帝御宇鎮坐秘說曰天照太神也神祇正宗

○貞觀十六年八月從三位 國史

按當社者大己貴命之鎮坐勿論欤祭祀

之日以干戈弓箭乘于七社神輿而從者

又表軍旅之威儀也 啓

○小津社 同郡三有リ祭神三座大宮二宮

三宮是也 至津正一佐小津社

神名長註 宇賀之鬼也按社家註進大宮

本縁同上二宮素戔彥鳥三宮大市姬也

按祭奠必用干日又稱稻荷同躰神則王

津之二字蓋有據乎 啓

○大宅社 栗太郡綾村_ニ有リ 祭神一座

素戔嗚尊 ○疫神也大宅年中降見

之神故稱大宅天王其影向之老杉_今存

社家註進狀 啓

○牛頭社 月郡下笠村_ニ有リ 祭神三座

牛頭天王 素戔嗚鳥 后宮 稲田姫

八王子 五男三女 已上同祇園

正一位牛頭天王ト号ス

○社記云當所栗太郡下笠村明神者真宗

六二八

豐祖父帝_即宇慶雲元年三月四日影向同四

月現平森大校本而宣為一郡東西守護神

矣百六代後奈良院_即宇神志_在菴_在民流

浪也仍享祿三年庚子五月十七日再造修

神殿而奉慰神慮同_即宇天文九年_即怒不

靜而鄉民同白著_即席也里人喚_即神樂岡神主

正春者_正鎮神也正春齊戒入_即神殿令_即神坐

正座密仰_即帝意奉授正一位也尔來号正一

位牛頭大明神致如在之禮奠 全文畧今摘要

啓

○水尾社 高嶋郡水尾村ニ有リ 祭神二座

猿田彦命 天鈿女命也 水尾大明神ト

号ス 神傳上ニアリ

○彼郡内有大河伴河南水尾猿田彦命名

河内社河北天鈿女命也兩社分テ水尾川勸

請也 神名帳註 啓

○田村社 甲賀郡土山驛之邊ニ有リ 祭神

正一位田村大明神 田村凡ノ靈神也東

夷征代之切アルニ依テ此地ニ祀欽鎮座

之年紀未考 啓

○田村麻呂者從三位左京大夫兼右衛士

督苑田麻呂子正四位上大養之孫身長五

尺八寸胸厚一尺二寸目如蒼鷹鬚編金絲

有事而重負則三百一斤欲輕則六十四斤

随心形欲怒目轉視則禽獸懼伏平居談笑則

老少馴親 日本後記 ○嵯峨天皇弘仁二年

五月逝去年五十七天皇甚ヲレミ玉ヘリ卒

治郡栗柄村ニ葬ル勅ニ依テ甲曹劍鋒

弓矢ヲ棺ノ内工入テ王城ノ方工東向ニ
立テ土葬ス 王代一覽念

○名ス黒主社 志賀郡辛崎カラサキ 辺ニアリ 祭神一座
大伴黒主之灵也

○志賀黒主者與多孫也與多者大友皇子
之子而創造園城寺曾賜大友姓其都堵矣
麻呂而後大友字改作大伴也黒主之在園
城寺亦自與多而連綿至此 本朝歴史

○ヒテサト秀郷社 粟太郎勢多郷大橋傍ニ有リ

祭神 依藤太秀郷方灵也相並一座 水
府神云々 謠傳秀郷為龍宮射三上之巨
蛇殺云仍祠其灵于勢多致 啓

依藤太秀郷者出自房前公之子魚名々々
子藤成々々子豊沢々々子村雄々々子乃
秀郷也仕至武藏守平將門誅伐之日詔秀
郷為鎮守將軍賜采地于東州 神社考

○ミナト関明神 志賀都會坂ニアリ 祭神一座
蟬丸之灵也 ○相坂関明神者蟬丸也有

草屋之跡深草天皇時良岑宗貞為勅使來
習和琴ヲ ○趣史曰式部卿敗實親王
之雜色也善彈琵琶結草庵于相坂隱栖享
二位源博雅往訪之遂得流泉咏木之調
按世俗以蟬丸為醍醐帝皇子其說云帝
貶管右丞相於宰府其寃在之憤令帝子
喪明即蟬丸也帝棄置之于王坂蟬丸善
彈琵琶云蟬丸之為皇子未考或云彈琵琶
之人非蟬丸云予謂當時有德之士屢

迹於逢坂寓懷於和哥自晦其光者也彼
信皇子之說者以四宮川原也帝王第四
之官所流離之地也仍以逢坂為王坂与
蟬丸相附說不可信之甚也 已上答
逢坂園之流泉約述為之
考其迹之所在於國之西也
金葉 正和子之在彼山のほろひまのうたふりし
たれ 考其迹之所在於國之西也
河心 引的おろけとてわが國の西より和月八丸 於陸

多夜乃圓の神とてくびくは蟬丸の物
おのの流とてさつばしてそとふ神と成
作りかへしとてさつばして保みさだに青
はあごの保みさつばしてあひあひさつ
保みさつばしてあひあひさつ保みさつ
ていさつばしてあひあひさつ

蟬丸の教義の精多し青月には流
保みさつばしてあひあひさつ保みさつ
保みさつばしてあひあひさつ保みさつ
保みさつばしてあひあひさつ保みさつ

たう教義の精多し青月には流
保みさつばしてあひあひさつ保みさつ
保みさつばしてあひあひさつ保みさつ
保みさつばしてあひあひさつ保みさつ
保みさつばしてあひあひさつ保みさつ

中... 言有妙

○赤山

○赤山者支那山名山有神世称太山

府君神也 神社者

社西坂本三有リ

慈覚大師在唐習清涼山引色念佛時神現
形与覚約束于日本覚帰朝海波惡將漂羅
刹国赤山明神着蓑笠持弓矢而護覚或現
不動形或為毘舍門姿故其舟與難相傳云
此本地々藏井也 秋書文

○神託

世々のあまのり乃是行もよは
え... 神託... 和洛依

和洛依

新羅社 園城寺北院ニ有リ

新羅明神者天安二年山珍師泛舶自唐歸洋中忽有老翁現船舷云我是新羅國之神也誓護持師教法至慈氏下生記已不見珍入京將傳來教籍藏尚書省時海上公羽來云此所不堪置經書是日域中有一勝地我已先相彼師國官建院宇度此典籍我鎮加護又佛法是王法之治具也佛法若喪王法亦喪語已形隱珍歸潛山至山王院時山王明

神現形云傳來經書道藏此所新羅明神又出云此地來世必有喧嘩不可置也南行數里是為勝處珍乃與新羅山王二神及二比丘到慈賀郡園城寺々僧教待說寺事既而山王迴睿皇新羅明神語珍云我卜居寺之北野時百千眷屬倏來圍繞唯珍獨見已下畧之元亨秋書文

案ニ卜部兼那說ニ新羅明神ハ素戔嗚尊ケケル化現也ト 說元ニ記ス



Faint handwritten text in a large rectangular frame on the right page.

美濃國 十八郡 田圃一万五千四百四丁

山林田畑多し穀万石ありて村里豊なり

此國有大野之故云云野後改美濃

不破 石津 安八 池田 大野 牟婁

席田 守見 方縣 各務 山縣 武義

郡上 賀茂 可見 土岐 惠奈 多藝

大管大上國南北三日

知行高 五十八万五千九百九十三石 江カヨリ 九十五里余

城下 高須 大垣城 加納城 郡上

岩村城 新田 高富 苗木城

美濃 一之宮 南宮神社

名産

波草縮緬 撰絲 絹 吳淞紙 尺長奉書
扇地紙 中折紙 厚紙 瀋吳淞 雄清布 濃戸陶物
関小刀 剃刀 危丁 又土 紺瓦 各川 温石
物産約指 本株柿 波草紙 同粉 墨殿鯉
吳淞鱧 北山集
名所 不破関 野上里 関津川 吳淞山 志井
六ノ三

縮葉山 吉野原 養老滝 笠置里 杭瀬川 寝覚里
淡妻波 日高拙 赤阪 岸田 伊津貫川 結宮
宇留田 船本山 関ヶ原 院池 三ツ井池
月ヶ比里 石田小野

神社 南宮

○南宮 不破郡ニ有リ 祭神 金山彦命
一宮記 ○社家註記云南宮者金山彦命而
火神非金神司離火南方故名南宮抑南宮

者陽神而居南方文武兼備故國家崇
貴叙正一位勳一等就中天武朱雀朝
施功於我邦云々按一社相兼如此乎
然奉備天覽國史皆為金山彦且風
土記金山彦神云々啓

○神託 世の人よ心も幼る事なりしを
の何ん共神ゆふじの心とるるを
所ふりし時其あむらるる日あふりし
○撰社 十禪師社 南大神 高山社 準人社

六ノ三

○飛驒國 四郡 田園 六千六百五十六丁

山深く良材多し 薪炭山に
埜之

飛驒本美濃國內也然建近江大津宮時
自當國良材多出也馱負木行大津如飛
也号飛驒風土記

大原 益田 天野 荒城 下後下々國南北三日

知行高 三万八千七百六十四石 江戸ヨリ 近 百二里余 遠 百八十里

飛驒 一之宮 水無神社

名産

飛驒嶋 日継 銀銅 綿 檉 土井 槻

揚枝木

搗栗 古川 鮎 隼鷹 焰硝 蘭

名所

位山 玄代の細江 二郡川 朝日原

浅水原

神社

水無

水無社

天野郡三有リ 祭神 大己貴命 兒

御歳神也 一宮記 ○大己貴命 女高照光姫

大和國葛上郡御歳神社司之

○御位 貞觀十五年四月 從四位上 国史

○信濃國 十郡 田園 二万九百九十六丁

地厚 凡一丈餘 幸深 一丈餘 陽北 凡一丈餘

海 凡一丈餘 堤 凡一丈餘 綿 帛 多

菟摩 水内 高井 埴科 小縣 佐久

伊那 諏訪 安曇 更級

上 後 大々 下 園 南北 五日

知行高 五十四万八千六百石 江戸ヨリ 五十里余

城下 松代城 上田城 飯山城 高嶋城 高遠城

須坂 小諸城 飯田城 岩村城 松本城

信濃

一之宮

南方刀美神社

名産

信州細 上田島 小人參 芍藥 杏仁

小梅

申枿 乾蕨 蕎麥 白芋 小搦原紙

本賊

麻絹 狂楮 土井捨皮 諏訪鰻 日鯉鮒

江經

奈良井曲物 玄孝煙草

名所

筑摩川 姨捨山 鬼越山 若野原 筑摩湯

七之里湯

金谷橋 伏屋 法回 有明山 淡野

更科

相原 法回 皇月牧 諏訪湖

岐香湯

元音棧 菅荒野 田毒月 幾ヶ嶺

根山

藤原川 塩田川 於井 植科 石井

法水里

神社 諏訪 戸隠

諏訪社

諏訪郡有 南方刀美社

祭神

健南方命 大己貴命 一男也又

健御名力神

氏傳系前見

天孫降臨時

健御名力命 逆命不順 於是

經津主神使

岐神 逐之 健御名力命 逃至

信濃諏訪郡請降云乞以諏訪郡為大已
貴之讓以為我有然則不逆天孫之命經
津主神告天孫而許與焉是今々大明神
也旧事紀

○戸隱社カクシ 同國有祭神タカフオノ 手力雄神

○日神入天石窟時手力雄神立磐戶之側カクシ

日神以御手細ナホクニ 開磐戶ナホクニ 之時手力雄神

則奉養御手引而奉出タマハリテ 日本紀

神書抄云伊勢內宮相殿龙服祭此神云々

六ノ四ノ

○上野國十五郡 田園二百八千五百三十四丁

陽家めりる事疾イサ 素林多イサ 々々イサ 蚕イサ 綑イサ

と如ん 瓜上野イサ 緒イサ

上毛野カミツケ 下毛野シモツケ 者兩國中間有二野云佐野カサ 笠

懸野カケノ 其野中有一河号渡瀬カケノ 又有川云佐野

中川以渡瀬為兩國境川西云上毛野東云

下毛野シモツケ 風土記抄

碓氷ウヰ 吾妻アハ 利根リネ 勢多セタ 佐位サイ 新田ニフタ

岡オカ 邑樂イノ 郡馬ノ 多胡タコ 甘羅カン 綠野キナ

那波山田 大管大々上國東西四日

知行高四十六万八千石 江戸ヨリ二十五里余

城下 矢田 高崎城 安中城 館林城

伊勢崎 上山 七日市 小幡 沼田城

野上 一之宮 拔鋒大明神

名産 野指 新田綿指 糸綿 佐野白苧

布 漆 戸沢石 盆山石 新根川鯉

名所 黒髪山 下野中 佐野 佐野 佐野 佐野 佐野 佐野

石垣沼 新根川 可保夜沼 榎登 多胡入野 碓氷作

神社 拔鋒

○拔鋒社 甘樂郡有 祭神經津主命也 一宮記 傳系上三有 鎮座年記未考



○下野國 九郡 田圃二万七千四百六十丁

山すまおろくくの豊ゆたか源ゆたかくの土ち厚あつくくの竹たけ本もと

都みやこ賀が足あし利り

梁やまど田あそ安あそ蕪あそ芳たけが賀が寒さむ川が

塩しほ屋や那な須す 真ま登あ

上かみ後あとの中ちゆう上かみ國くに東あづま西にし三さん日にち半はん

知行高四よ六む万まん四し千せん石しやく 江え戸とヨり廿にじゅう五ご里り余あまり

城しろ下した 壬にん生せい城じやう 鳥とり山さん城じやう 大おほ田た原はら城じやう

黒くろ羽う根ね 喜き連れん川が 足あし利り 宇う都と宮みや城じやう

六ノ四十三

野下 一之宮 二荒山神社

名産 日光海苔 日光盆 日折敷 日本梓 日光漬

宇都文笠 大方紙 漆箱 鷹鈴 銅羅 團扇

稲葉 牛房 銅あし山やま

名所 黒髪山 二荒山ふたあらい又また八やちかんかんままのの洞どう 裏見瀧

二光山ふたひかりより一里いちりままねね 中ちゆう禪ぜん寺じ湖うみ 安あ蕪そ川が 室むろ八やち島しま

山やま菅すげ橋はし

神社 二荒

○二荒山社 河内郡有祭神事代主神

一宮記 傳系上有 鎮座年記未考

御位 貞觀十一年二月廿八日丙辰從二位

勲四等二荒山神階加正二位 國史

○神託 我人の吾瓜をばまん子その身此

去あしちりしとくくむれりさあは

一採一礼む形くかきほみきほをさく

くくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく

○陸奥國 五十四郡 田圃 四万五千七十七丁

陸奥の奥なきをかく名付るまじりしりしり

出羽國と一玉形りえぬ帝此御時兩國と

都くくくく黄金を堀出く一貢と去る國

なり五穀豊饒めして大くよその國なり

宮城 白河 黒川 磐瀨 會津 那麻

小田 安積 安達 柴田 刈田 遠田

名取 信夫 菊田 釧標 葉 阿基 沼 行 方

磐手 和賀 河内 裨 継 高野 亘 理

城下	知行高	百七十二万九千石	江戸ヨリ	近四千里	遠百六十里
仙臺城	會津城	白川城	氣仙	磐前	本吉
			那裁	江差	王造
			藤角	大島門	加兵
			階上	長岡	志多
			津輕	登米	栗原
			字多	桃生	江判
			伊具	牡麻	刺
			石門	大治	文摩
			大治	文摩	稲我
			葛田	伊達	北麻
			伊達	北麻	岡伊

大管大々上々國東西六十日

守山	二本松城	福嶋城	一之関城	森岡城
八戸城	弘前城	三春城	和ノ泉	岩城城
棚倉城	松前城	湯長谷	中村城	
名産	仙臺紬	奉書紙	雜紙	紙布
	埋木灰	香好小	沙金	土器
	大蕪	金海菘	鮭子籠	堀引
	尾鞭豹	馬尾	岩城海膽	編布
	白川編緞	福清絹	會津椀	會津盆
				日漆
				干飯
				鷹
				熊一文皮
				信交摺

會津端燭 津柱石 津柱琥珀 丹土 南水晶

とうらの硯石 三月三日の潮干小 薰陸

松前物

鷹 真羽 温鶴 干鮭 鯉 鯉子

鯨 炙鮓 昆布 獺虎 水豹 鮭皮 鮭膽

麻皮 旭嶺 移の奴 ありけな 膾胸臍

干獨活 干豆腐 砂金 磁石

名所

白川関 道登道清水 阿武隈川 袖波

葛松原 世の中此人々の所を 支那坂

月見沼 は活を藻もりくあ 信支山

雲積山 安核沼 安達系 黒塚 忠指石 虹引山

二平柳 頼上 佐友を司 下廻関 修達大本戸

白石 甲冑堂 真野 萱原 怪園 武隈堂

寶方塚 名取川 五橋 芭蕉过 志乃山

宮城野 玉田 横野 礮罫関 猪絶橋 夷橋

奥細糸 壺碑 松崎 松浦 雄鶴原 浮橋

美豆小橋 十舟里 藤島 沖の石 末松山

都考 富橋 鐘掛橋 塩電浦 金華山

奥海 七ッ森 平和泉 衣関 衣川 櫻谷

光堂	高敏城	一之宮	尾駸津牧	磐手山
盛岡	枯杵	狹里	錦塚	十綱橋
千賀監竈	小黒寄	玉川	玉造江	真井
宗古る岡	山井	會津山	阿古屋松	二本松
青葉山	龍の口	圓見坂	仁糴坂	比丘尾坂
袋原	小鶴沼	生稟原	青海原	飽寄
行浦	福浦	朝日山	沖二子湯	磯二子湯
高清水	月見登	長老坂	津輕	外濱
青森	松前	離小島	常盤橋	蝦夷

六ノ四十七

蝦夷
千嶋

陸奥

一之宮

都々古和氣神社

神社

都々古和氣

都々古和氣社 白河郡有 祭神 味耜託
 彥根命也 一宮記 傳承上見多 鎮座年記未考
 此外當國 伊達明神 鹽釜明神
 笠島道祖神等社有 追而可考

○出羽国十二郡 田圃三万八千六百九八丁
 和洞五年始々陸奥二郡孤刻々置之
 上古此地より鷲鷹の羽を貢ふる所出羽
 と云ふは玉陽字早くて五穀実の多き
 飽海 河邊 村山 益賜 雄勝 平麻
 田河 出羽 秋田 由理 山乞 寂上
 山本 右為遠國
 上管大上之國之東西五十日

知行高 八十七万石 江戸リ 遠 百四十里
 近 七十里

六ノ四十八

城下	秋田城	新田	本庄城	亀田城
上ノ山城	庄内城	松山	山形城	
新庄城	米澤城	米澤新田	高畑	
出羽	一之宮	大物忌神社		
名産	寂上紅花 法橋と漆 青苔 良物	油紙 法金 秋田系根	秋田系根 麻皮 湯	

新銀 串籠 斐海嵐 毘布

名所

象浮 寂上川 神の浦 びやくの園

突如あまの場なりは本祭祭一々鳴一園々
出羽の方ふありあよ出羽のふふ

急の山 宿脊山

神社

物忌

大物忌社

飽海郡ニ有リ

祭神

倉稻魂

神也一宮記 傳上ニ有リ

續日本後記云出羽国飽海郡正五位下勳

五等大物忌神祇四位下餘如致兼充神封

二戸詔云天皇我詔旨尔坐大物忌大神尔

申賜波久 渟皇朝尔縁有物怪天ト詢尔大

神為崇賜倍利加之遣唐使第二船人等廻

來申久去年八月尔南賊境尔漂落氏相殿

